



三手先さえ読まない人々

あらゆるケースを考えて三手先まで読む

囲碁では、自分の番で打つ手が一手目。それに対して相手が打つ手を二手目と呼びます。相手が打つかも知れないあらゆる手に対して「こう打つたら、こう打てば良い」と考えるのが三手目です。三手目まで考えることが囲碁上達の秘訣と云われています。

しかし、現実世界では三手先まで読まない人が沢山居ます。

目先の一手しか考えない？

福島原発の震災後の東電や原子力保安院の動きを見ると、目の前にある惨状にたいして一手目は考えても、その結果たる二手目が予想通りにならない場合、つまり、一手目が成果を上げなかった場

山本五十六も一手目しか考えていなかった？

それについて、思い起

こすのは山本五十六です。山本五十六は「日本は英米を相手に戦争しても絶対に勝てない」と主張したが、開戦派に押し切られたときに「二年くらいは暴れてみせるので、それから和平交渉に持ち込むこと」として、対米戦を引き受けたそうです。でも、一手目で真珠湾攻撃して、二手目で、米国が和平に応じなかった時に打つべき三手目

は考えていなかったようです。

どうもその頃から日本の指導層は三手先さえ読んでいなかったように思うのですが、皆さんはどう思われますか？

舞う花びらにどよめきが...

今年も又、桜の季節になった。この絵の中央の観音橋から下流に向けて約四キロ桜並木が続いている。東日本大震災で、例年のライトアップは中止。しかし、日中は大勢が繰り出して来る。水面に散った花びらが美しい。

さーっと吹く風に舞う桜吹雪に歓声がわく。水がきれいになって親水施設も作られ、飛び石い対岸に渡ることも出来る。絵を描いている内に、どんどん廻りに人が座り、弁当を広げ始めた。



観音橋 - 大岡川 - 弘明寺